

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2025年 12月12日 ～ 2025年 12月26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 12月12日 ～ 2025年 12月26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の満足度が高い	子どもが好きなこと、やりたいと感じる遊びを中心に支援を組み立て、主体的に取り組める環境作りを行っている。その中で生活面や対人面などの力が自然と育つよう、関わり方を工夫している。	一人ひとりの発達段階や特性に応じ、目標を細分化し、小さな成功体験を積み重ねられるよう支援を行い、達成感や自己肯定感を育み次の意欲につながるよう支援を行う。
2	子どもに寄りそった支援を行っている	活動内容や参加の仕方について、子ども自身が選択できる機会を設けている。気持ちが向かない時には無理に参加せず、安心できる関わりや代替の過ごし方を用意することで、自己決定を尊重している。	子どもが自分で選び、決める経験を大切にし、視覚的な支援や環境調整を通して、無理なく自己選択出来る関わりを増やしていく。
3	職員一人ひとりの資質の向上を図っている	外部講師による接遇研修を実施するとともに、月一回の全体会では発達支援や子どもへの関わり方について事業所研修を行い、職員一人ひとりの接遇力や支援の質の向上に努めている。	外部研修と内部研修を効果的に組み合わせ、現場課題を踏まえた事例検討や振り返りを通して、職員の資質と支援の質のさらなる向上を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングにつながる支援や保育者同士の交流の機会の提供が不足している。	日常的な相談対応により個別の支援は行えていたが、集団的な家族支援につなげる機会が限られていた。	必要に応じて学びの機会や交流の場を提供するなど、事業所の体制や保護者のニーズなどを踏まえ実施可能な方法で充実を図る。
2	地域の子どもと活動する機会を持つことが出来なかった。	保育園等との役割分担があり踏み見込んだ支援には及ばなかった。 児童館や地域の遊び場に足を運んだり、最寄り駅への見学や近隣店舗での買い物支援など、地域資源を積極的に活用しているが、児童が保育園等を利用している時間帯ということもあり交流はできなかった。	今年度行った活動をさらに充実させていくとともに、地域の子どもとの関わりをどのような形で実現できるか職員間でアイデアを出し合い、保育園等と連携していく。
3			